

東北地方 1 か月予報

(2 月 2 2 日から 3 月 2 1 日までの天候見通し)

平成 1 5 年 2 月 2 1 日
仙台管区气象台発表

< 予想される向こう 1 か月の天候 >

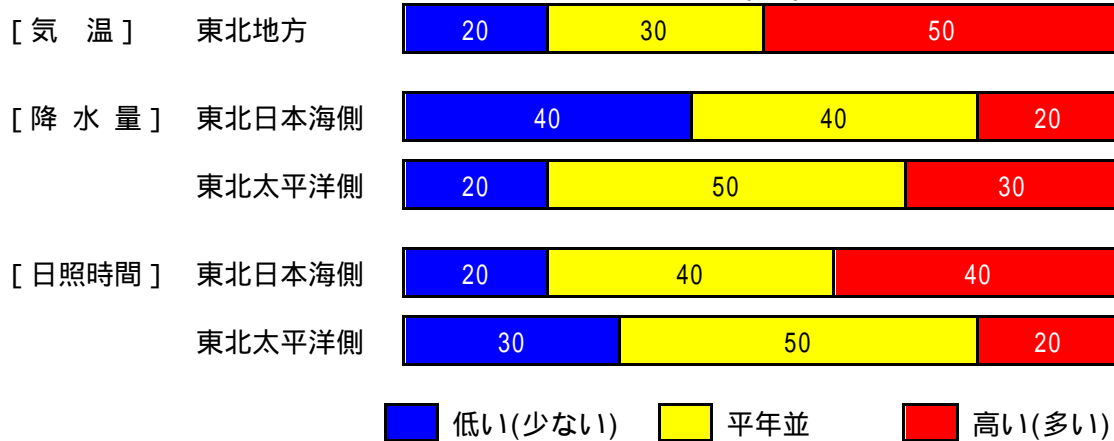
向こう 1 か月の可能性の大きな天候は以下のとおりです。

天気は概ね周期的に変化し、気圧の谷の通過後は冬型の気圧配置となる日もあるでしょう。東北日本海側は平年より晴れの日が多く、東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

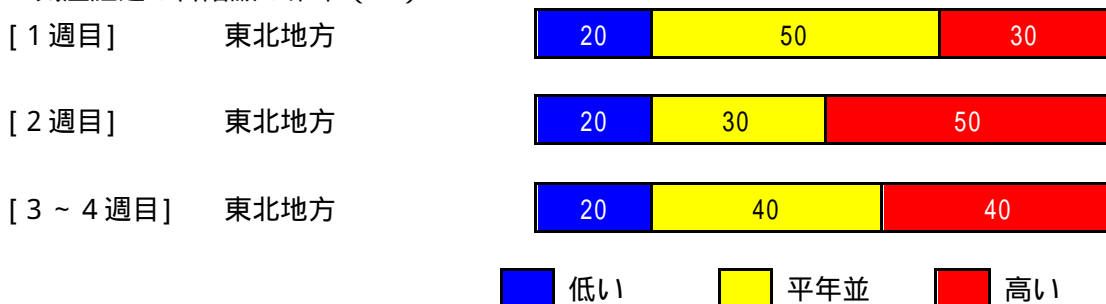
向こう 1 か月の気温は高い、降水量は東北日本海側は平年並か少なく、東北太平洋側は平年並、日照時間は東北日本海側は平年並か多く、東北太平洋側は平年並でしょう。

週別の気温は、1 週目は平年並、2 週目は高い、3 ~ 4 週目は平年並か高い見込みです。

< 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >



< 気温経過の各階級の確率 (%) >



< 予報の対象期間 >

1 か月 : 2 月 2 2 日 (土) ~ 3 月 2 1 日 (金)
 1 週目 : 2 月 2 2 日 (土) ~ 2 月 2 8 日 (金)
 2 週目 : 3 月 1 日 (土) ~ 3 月 7 日 (金)
 3 ~ 4 週目 : 3 月 8 日 (土) ~ 3 月 2 1 日 (金)

< 次回発表予定等 >

1 か月予報 : 毎週金曜日 1 4 時 3 0 分 次回は 2 月 2 8 日
 3 か月予報 : 3 月 2 5 日 (火曜日) 1 4 時 0 0 分
 暖候期予報 : 3 月 1 0 日 (月曜日) 1 4 時 0 0 分

< 参考資料（平年並の範囲等） >

（１）30 年平均値（向こう 1 か月の平均気温，降水量，日照時間と 1 週目，2 週目，3 ～ 4 週目の平均気温）

	気 温 ()	降 水 量 (mm)	日照時間 (時間)	気 温 ()		
				1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
大船渡	2.5	69.2	150.0	1.5	2.1	3.2
新庄	0.9	107.7	91.3	-0.2	0.5	1.7
若松	1.7	59.3	118.8	0.4	1.2	2.6
深浦	1.6	70.5	87.0	0.5	1.1	2.3
青森	0.9	72.7	111.2	-0.3	0.4	1.7
むつ	0.3	72.1	125.1	-0.7	-0.1	1.1
八戸	1.1	45.6	149.3	-0.1	0.7	1.9
秋田	2.1	85.4	104.5	0.9	1.6	2.9
盛岡	0.6	64.9	145.4	-0.7	0.1	1.5
宮古	2.0	75.3	160.8	0.9	1.5	2.7
酒田	3.2	94.1	97.3	2.1	2.8	3.9
山形	1.8	61.5	124.8	0.5	1.4	2.7
仙台	3.5	58.2	161.0	2.4	3.1	4.2
石巻	2.7	54.6	168.1	1.6	2.3	3.4
福島	3.7	61.2	157.6	2.5	3.3	4.6
白河	2.4	55.4	162.7	1.1	2.0	3.3
小名浜	5.3	79.8	171.5	4.3	4.9	6.0

なお、気温，降水量，日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

（２）1971～2000 年のデータに基づいた向こう 1 か月地域平均の気温，降水量，日照時間の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差 ()	降水量平年比 (%)	日照時間平年比 (%)
東北地方	-0.6 ～ +0.6	83 ～ 111	94 ～ 106
東北日本海側	-0.6 ～ +0.6	89 ～ 108	93 ～ 108
東北太平洋側	-0.6 ～ +0.6	78 ～ 115	96 ～ 105

（３）この予報期間の 1 週目，2 週目，3 ～ 4 週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
東北地方	-0.8 ～ +0.8	-0.7 ～ +0.6	-0.4 ～ +0.5
東北日本海側	-0.8 ～ +0.8	-0.6 ～ +0.6	-0.4 ～ +0.5
東北太平洋側	-0.8 ～ +0.8	-0.7 ～ +0.6	-0.4 ～ +0.5

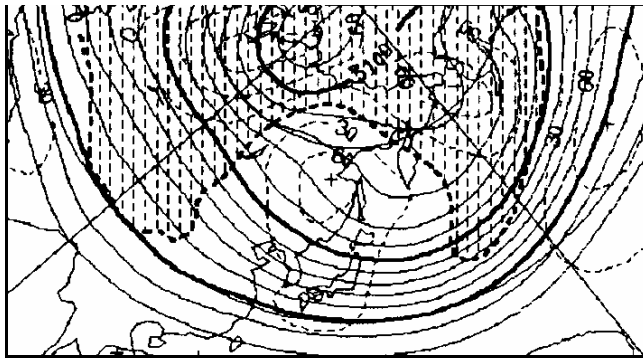
< 参考資料（利用上の注意） >

（１）気温・降水量等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の 3 つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000 年の 30 年間に於ける各階級の出現率が等分（それぞれ 33 %）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。

（２）確率は、予報した階級が実際に起こる割合（出現率）を表しています。たとえば、確率 60 % の予報 10 例では、そのうちの 6 回で予報した階級が実際に起こり、4 回で起こらないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には気候的出現率（各階級ともに 33 %）から大きく隔たった確率（10 % や 60 %、70 % など）を付けられますが、有意性が低い場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30 %、40 %）の確率しか付けられません。

（３）晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の 2 分の 1 より多い（少ない）ことを意味します。

3. 循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

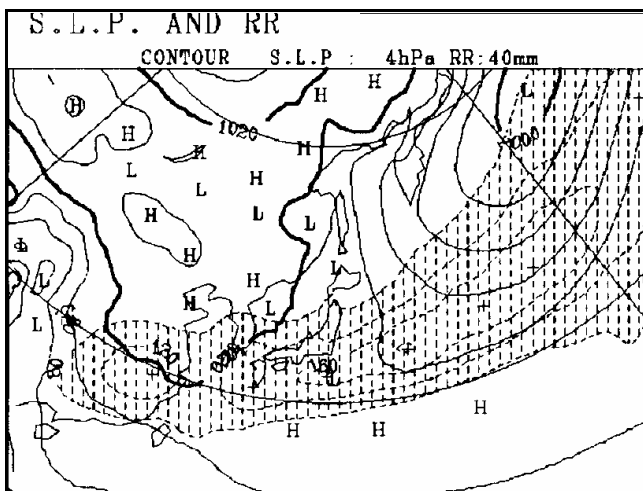


月平均の 500hPa 高度・偏差
等高度線：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差

500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、日本付近は大陸に中心を持つ正偏差に覆われる。偏西風の流れは日本の東が谷場（東谷）になっており、天気の大きな崩れはない見込み。

週別（図略）では、1 週目は大陸に正偏差、日本の東海上に負偏差が広がり、東谷が明瞭。2 週目以降は、偏西風の流れは東西流が卓越し、天気は概ね周期変化する。気圧の谷の通過後に冬型の気圧配置となる日もあるが、持続的な寒気の南下はない見込み。



月平均の地上気圧と降水量
等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上

地上気圧と降水量

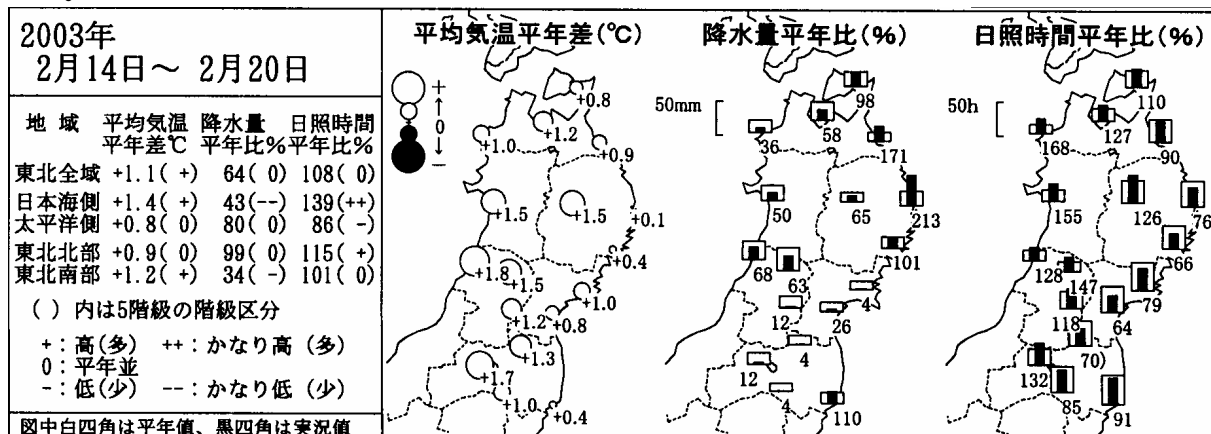
月平均で見ると、平年に比べ日本付近の冬型の気圧配置は弱く、等圧線の間隔が広がっており、天気は周期変化が基調。日本の南岸にまとまった降水域が予想され、東北地方にもかかっている。

週別（図略）では、1 週目、日本の南岸の低圧部が平年より明瞭だが東北地方に降水域はかかっていない。2 週目、日本付近に降水域が広がり、低気圧の影響を受けやすい。また、平年より弱い冬型の気圧配置が残る。3～4 週目は等圧線の間隔が広がり、天気は周期変化する見込み。

4. 最近 1 週間（2 月 14 日～2 月 20 日）の天候の経過

この期間、天気は概ね周期的に変わり、気圧の谷の通過後は冬型の気圧配置となる日があった。このため、東北日本海側では曇りや雪の日が多かったが、高気圧におおわれて晴れる日もあった。東北太平洋側では北部を中心に概ね晴れたが、20日は日本の南岸を発達しながら通過した低気圧の影響で沿岸部を中心にまとまった降水となった。

平均気温は東北日本海側で平年差+1.4 と高く、東北太平洋側で平年差+0.8 と平年並だった。降水量は、東北日本海側で平年比43%とかなり少なく、東北太平洋側で平年比80%と平年並だった。日照時間は、東北日本海側で平年比139%とかなり多く、東北太平洋側で平年比86%と少なかった。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）

